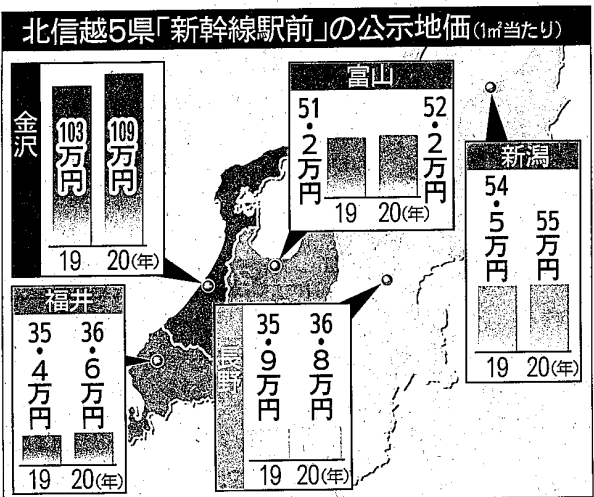


金沢 新潟引き離す

北信越5県「新幹線駅前」比較

上昇率 敦賀延伸で福井2位



本町2丁目109万円

北信越5県の県庁所在地にある「新幹線駅前」の地価は、金沢（金沢市本町2丁目）が1平方メートルあたり109万円となり、2位の新潟（新潟市東大通1丁目）の約2倍でトップとなった。上昇率は鈍化したものの5県で最も大きく、新潟との価格差は拡大した。3位の富山（富山市桜町2丁目）は52万2千円で新潟との価格差を縮めた。北陸新幹線の敦賀開業を控える福井（福井市中央1丁目）の上昇率は金沢に次いで2番目だった。【1面に本記】

金沢は2013年以降、8年連続でトップとなっている。1平方メートルあたりの価格では、新潟の55万円に比べて54万円高かった。上昇率は前年の7.9%から5.8%に縮小した。駅周辺では新規ホテルの立地が集中しており、宿泊施設間で過当競争の傾向がみられた。

新潟の上昇率は前年の1.9%から0.9%に縮小した。新潟県によると、駅

富山県内の全用途の平均変動率は前年と同じマイナス0.1%で、28年連続で下落した。住宅地の平均変動率は前年のマイナス0.1%から27年ぶりに下落を脱し、横ばいとなった。工業地の平均変動率は4年連続の横ばいからプラス0.1%となり、28年ぶりに上昇した。商業地は28年連続で下落し、下落率が前年の

富山県 全用途 28年連続下落 住宅地、27年ぶり下落止まる

富山県内の全用途の平均変動率は前年と同じマイナス0.1%で、28年連続で下落した。住宅地の平均変動率は前年のマイナス0.1%から27年ぶりに下落を脱し、横ばいとなった。工業地の平均変動率は4年連続の横ばいからプラス0.1%となり、28年ぶりに上昇した。商業地は28年連続で下落し、下落率が前年の

富山県内の全用途の平均変動率は前年と同じマイナス0.2%から0.3%に拡大した。住宅地は富山市が前年に続いてプラス0.8%となり、6年連続で上昇した。一方、横ばいは小矢部市と舟橋村で、ほかの12市町は下落した。商業地は富山市が6年連続で上昇したが、富山駅周辺の伸びが鈍化した。高岡市では高岡大和の撤退で中

富山の上昇率は前年の2.8%から2.0%となった。新潟との価格差は前年の3万3千円から2万8千円に縮んだ。地価公示富山分科会の朝倉秀朗代表幹事は21日に富山駅の路面電車南北接続を控えており「駅南側だけでなく、北側でも価格上昇の動きが出ていく」と指摘した。

福井の上昇率は3.4%（前年3.5%）で、1平方メートルあたりの価格は北信越5県で最も低い36万6千円となったが、4位の長野（長野市南長野石堂東沖）との

差は前年の5千円から2千円に縮小した。福井県によると、駅前では外資系ホテルマリオットの進出が決まって引き続き昇が広がった。

新型コロナ影響9割

石川県中央会調査 幅広い業種に広がる

石川県中小企業団体中央会が2月下旬から3月上旬にかけて新型コロナウイルスに関する調査を会員団体に行ったところ、「既に影響がある」「今後影響が出てくる」と回答した団体は全体の88.4%だった。サプライチェーン（部品の調達・供給網）の混乱や観光客減少で幅広い業種にマイナスの影響が広がっている。

52団体から回答を得た。回答の内訳は「既に影響がある」が53.8%、「今後影響が出てくる」が34.6%、「特に影響はない」が11.5%だった。

「既に影響がある」と答えた団体を業種別でみると、製造業は50.0%、非製造業は57.7%。聞き取りでは「対策の取りようがない」との声が目立った。

DIは5項目悪化

同会がまとめた2月の景気動向指数（DI）調査によると、9項目のうち「業界の景況」など5項目が前月に比べて悪化した。特に売上高DIが前月のマイナ

北陸経済